

2012年9月期 第3四半期

決算説明資料

(2011年10月-2012年6月)

株式会社FPG

(code:7148)

東証2部



2012年7月

2012年9月期第3四半期 業績ハイライト	P3
各四半期の売上高偏重傾向について	P4
2012年9月期第3四半期 レビュー	P5
2012年9月期第3四半期 営業面総括	P6
2012年9月期第3四半期 トピックス	P7-8
2012年9月期第3四半期 損益計算書	P10
2012年9月期第3四半期末 貸借対照表	P11
B/Sにおける当社の特徴	P12
2012年9月期 通期業績予想について	P14

2012年9月期 第3四半期 業績の総括



2012年9月期第3四半期 業績ハイライト

売上高の対前年同期比増減率は21.4%と伸長したものの、売上の増加に伴う顧客紹介者への支払手数料の増加及び組成関連コスト増、加えて前期末より人員増強を積極的に推進したことによる、人件費の増加が主な要因となり、利益を圧縮。結果、利益ベースでは10%台の増加となった。

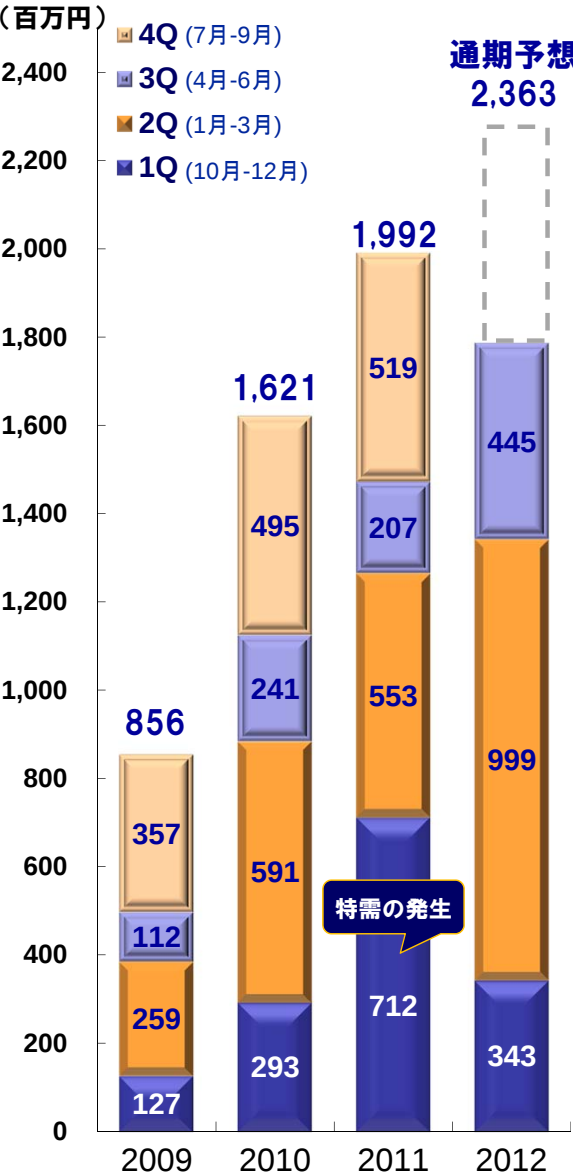
出資金販売においては、営業部門の人員強化及び会計事務所、金融機関とのアライアンスによる販売ネットワークの拡充に努め、中小企業からの旺盛な税の繰り延べニーズの取込みに注力したことにより、出資金の販売額は対前年同期比+24億円と、極めて好調に推移した。

一方、組成面においては、組成を補う潤沢な資金調達力の確保に努めたことで、当四半期において資金調達力が72.5億円(第2四半期末)から89.5億円に拡大。当四半期において組成案件はなかったものの、新規組成案件の発掘・獲得に努めるなど、賃借人との交渉に注力した。

【百万円】	2011年9月期 第3四半期 10月～6月	2012年9月期 第3四半期 10月～6月	対前年 同期 増減	対前年 同期 増減率	2012年9月期	対業績予想 進捗率
	実績	実績			通期予想	
売上高	1,472	1,787	+315	+21.4%	2,363	75.7%
営業利益	773	855	+81	+10.5%	1,163	73.5%
経常利益	717	797	+80	+11.2%	1,113	71.7%
四半期 当期純利益	414	458	+44	+10.6%	646	70.9%
リース事業 組成金額	36,150	34,357	△ 1,793	△ 5.0%	50,140	68.5%
出資金販売額	9,667	12,087	+2,420	+25.0%	14,784	81.8%

各四半期の売上高偏重傾向について

当社の各四半期会計期間の売上は、当社案件に投資していただく投資家の決算月(9月・3月決算)が集中する、当社の第2四半期及び第4四半期に偏重する傾向があります。



(単位:百万円)	第1四半期 会計期間	第2四半期 会計期間	第3四半期 会計期間	第4四半期 会計期間	通期
	10月から12月	1月から3月	4月から6月	7月から9月	合計
2010年9月期					
売上高	293	591	241	495	1,621
売上高割合	18.1%	36.4%	14.9%	30.6%	100%
2011年9月期					
売上高	712	553	207	519	1,992
売上高割合	35.7%	27.8%	10.4%	26.1%	100%
2012年9月期 通期予想					
売上高	343	999	445		2,363
売上高割合	14.5%	42.3%	18.9%		100%

投資家がリース事業に出資するか否かの意思決定は、投資家自身の業績動向が判明する決算月近くに行われる傾向があり、結果として投資家の決算月(9月・3月決算)に集中することから、当社の第2四半期及び第4四半期に売上が偏重する傾向があります。

2012年9月期第3四半期 レビュー

営業面

タックス・リース・アレンジメント事業

▶ 東北地方に散見される復興特需の取り込み

→ 土木建築関連企業を中心に税の繰り延べニーズをくみ取り、積極的に販売。
大口投資家も散見され、出資金の販売が伸長。

▶ 海外に設立したアレンジメントを専門に行う合併会社が本格始動

→ 4Qにおいてヨーロッパ大手の海運会社を賃借人とするリース案件の組成を予定。

▶ 信用力の向上

→ ① 販売ネットワークの拡充

1000を超える税理士・会計事務所及び34の金融機関との提携が加速、特に地銀からの紹介案件が増加傾向。(P7参照)

→ ② 資金調達力が拡大

コミットメントライン融資枠等が拡大、総額89.5億円に増加。(P8参照)

▶ 大宮支店開設を予定 (2012年4月9日プレス発表)

→ 大宮を拠点として北関東・東北・上越地域における更なる営業の拡充、特に東北地域の復興特需の取り込みに注力、新規顧客の獲得を目指す。第4四半期中の開設に向け準備中。

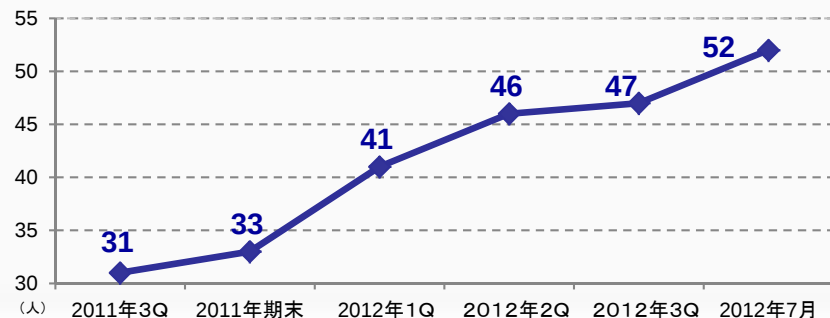
その他

取組み

▶ 業容拡大に伴う営業部門の人員を強化

→ 前期末より人員を大幅増員
前期末33名

↓
52名へ (2012年7月1日現在)

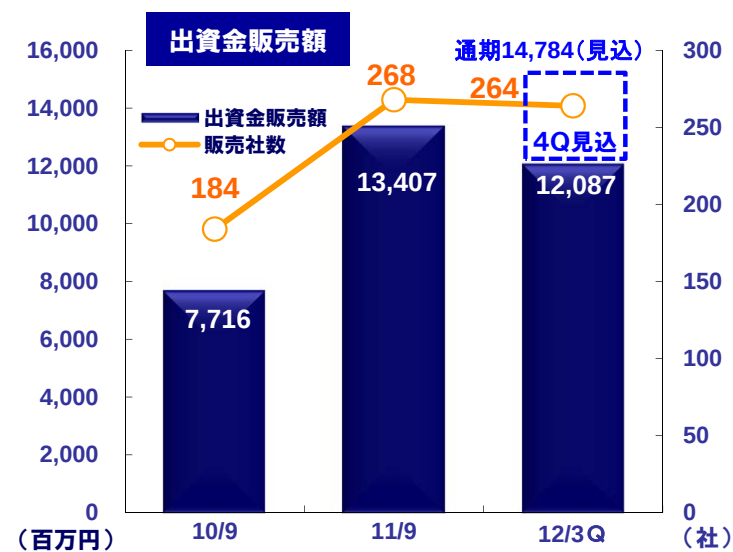
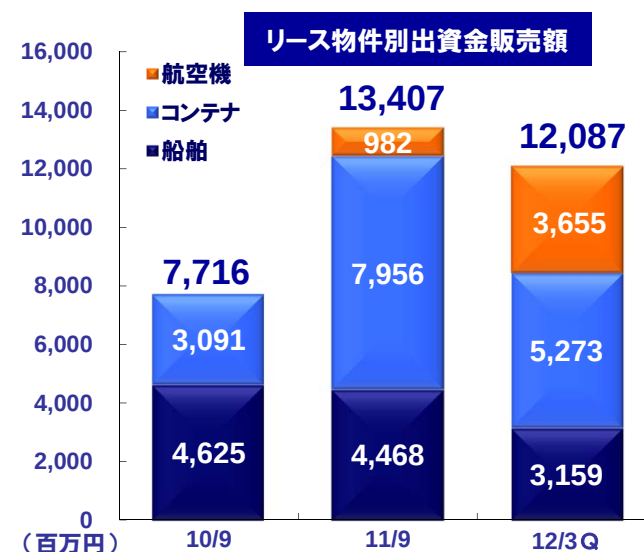
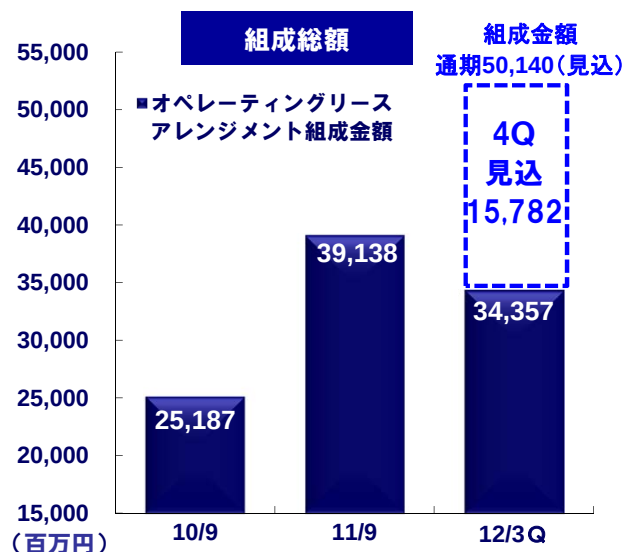


2012年9月期第3四半期 営業面総括

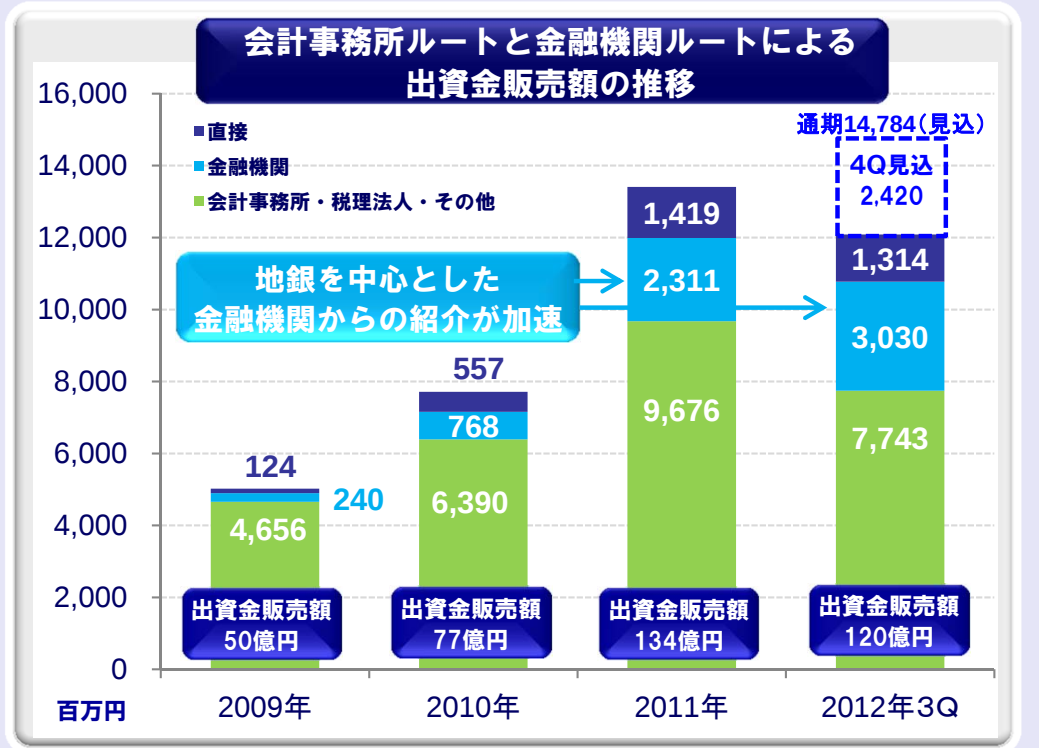
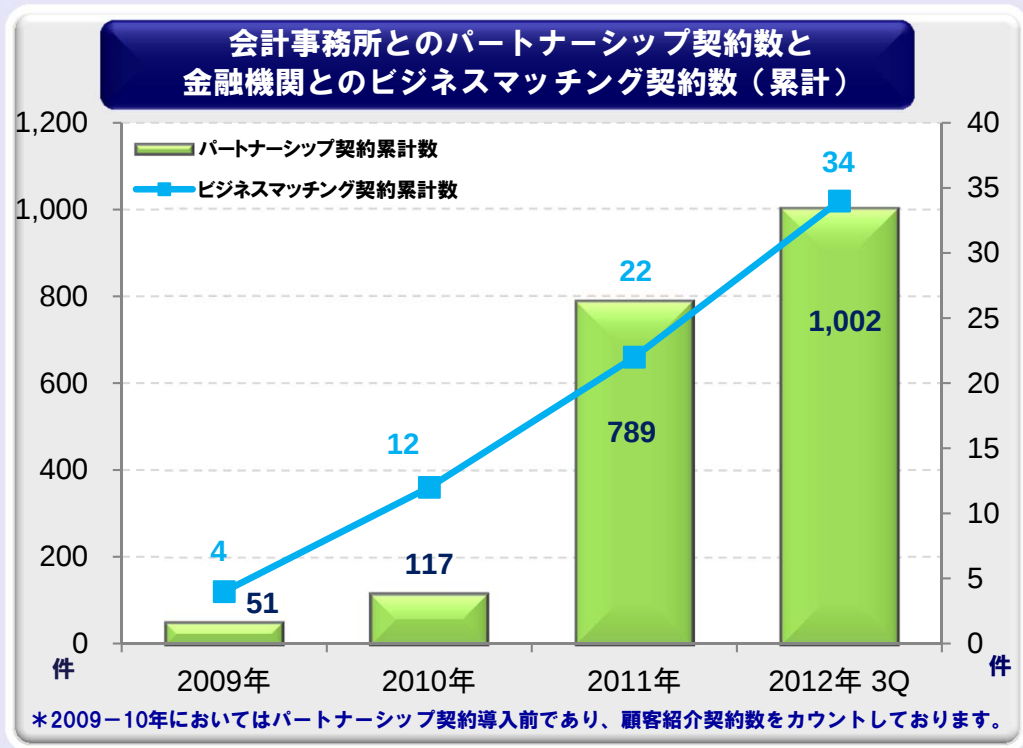
◆好調な販売環境 出資金販売額は12,087百万円へ

中小企業からの引き合いは強く、旺盛な投資家需要に対応するとともに、東北地方を中心とした復興特需企業の取り込みに注力した。また、従来の会計事務所に加え、金融機関からの紹介が加速したことで、販売チャネルが拡大し、出資金販売は120億円へ。一方、組成に関しては3Qにおいての組成案件はなかったものの、海外に設立した合併会社アレンジのもと、4Qにおいてヨーロッパ大手の海運会社を賃借人とするリース案件の組成を予定。

(百万円)	2011年 3Q	2012年 3Q	増減	2011年9月期 通期実績	2012年9月期 通期予想
オペレーティング リース アレンジメント組成金額	36,150	34,357	△ 1,793	39,138	50,140
出資金販売額	9,667	12,087	+2,420	13,407	14,784
	船舶	3,159	△ 1,039	4,468	
	コンテナ	5,273	△ 85	7,956	
	航空機	110	+3,545	982	
販売社数(件数)	186	264	+78	268	
タックス・リース・アレンジメント売上高	1,450	1,712	+261	18.0%	
手数料 (売上／出資金販売額)	15.0%	14.2%	△0.8%	14.4%	



- ◆全国の会計事務所とのパートナーシップ契約を積極推進、販売網を拡充
- ◆金融機関、特に地銀との提携（ビジネスマッチング契約）により投資家紹介が加速



2012年9月期 第3四半期 トピックス

▶ 資金調達力の拡大、機動的な資金の確保

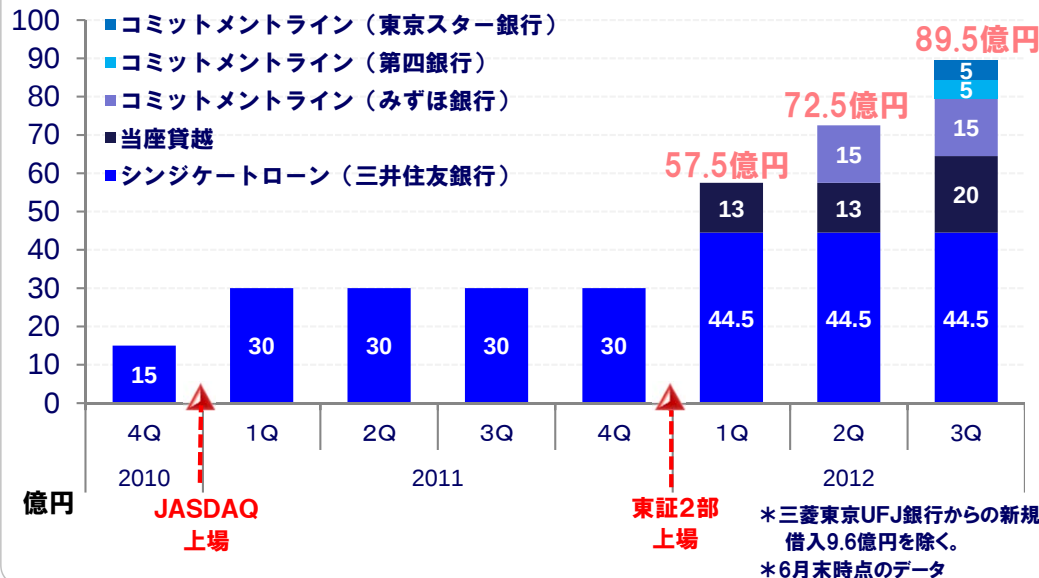
2012年1月 三菱東京UFJ銀行から9.6億円の新規借入を実施

2012年6月 当座貸越契約の拡大 3Qにおいて総額20億円へ

コミットメントライン融資枠の拡大

- ◆ 2012年1月26日 みずほ銀行と15億円
 - ◆ 2012年4月13日 第四銀行と5億円
 - ◆ 2012年5月22日 東京スター銀行と5億円
- コミットメントライン融資枠契約を締結

資金調達力の向上に伴い組成案件の規模拡大、
一度に複数の案件組成が可能に。



▶ オランダ合併会社が本格始動、第1号案件組成へ

2012年2月にオランダに設立した、海外リース事業のアレンジメントを専門に行う合併会社が本格始動。同社アレンジのもと、第4四半期において、ヨーロッパ大手の海運会社を賃借人とするリース案件の組成を予定。

▶ 大宮支店の開設を予定

大宮を拠点として北関東・東北・上越地域における更なる営業の拡充、特に東北地域の復興特需の取り込みに注力、新規顧客の獲得を目指す。
第4四半期中の開設に向けて準備中。

2012年9月期第3四半期 財務ハイライト



2012年9月期第3四半期 損益計算書

(百万円)	2011年 第3四半期	2012年 第3四半期	増減	増減率
売上高	1,472	1,787	+315	+21.4%
売上原価	194	261	+66	+34.1%
売上総利益	1,277	1,526	+249	+19.5%
販売費及び一般管理費	503	671	+167	+33.3%
営業利益	773	855	+81	+10.5%
営業外収益	14	75	+61	+434.8%
受取利息	11	60	+49	
為替差益	0	12	+12	
その他	2	1	0	
営業外費用	70	132	+61	+87.5%
支払利息	15	72	+56	
支払手数料	53	59	+6	
社債発行費	1	-	△1	
経常利益	717	797	+80	+11.2%
特別損失	7	-	△7	
税引前四半期純利益	710	797	+87	+12.3%
法人税、住民税及び事業税	337	339	+2	
法人税等調整額	△42	△0	+41	
法人税等合計	295	339	+43	+14.6%
四半期(当期)純利益	414	458	+44	+10.6%

1

売上高 1,787百万円 (+315百万円)

タックス・リース・アレンジメント事業に
おける売上 1,712百万円
その他事業における売上 75百万円
(保険仲立人・M&Aアドバイザー事業等)

2

営業利益 855百万円(+81百万円)

業容拡大に伴う人員増強による人件費* 294百万円及び
東証2部への新規上場に伴うコスト等により販管費は
+167百万円と増加したものの、売上高の増加がコスト増
を吸収、営業利益は前年同期比+10.5%と増益となった。

* 給与、賞与(引当金繰入額含む)、法定福利費、福利厚生費の他、人材採用費

3

経常利益 797百万円 (+80百万円)

営業外費用は商品出資金の積増に伴う資金調達額の拡大
により、支払利息が72百万円となった他、シンジケート
ローン手数料を含む支払手数料59百万円の計上等により、
132百万円(前年同期比+87.5%)と増加。一方、営業外
収益においては、好調な出資金販売に伴い投資家から徴収
する経過利息も増加し、受取利息60百万円を計上。
結果、経常利益は前年同期比+11.2%と伸長した。

リース開始後に投資家に商品出資金を販売した場合、
経過分の利息を投資家から徴収。受取利息として営業外収益に計上。

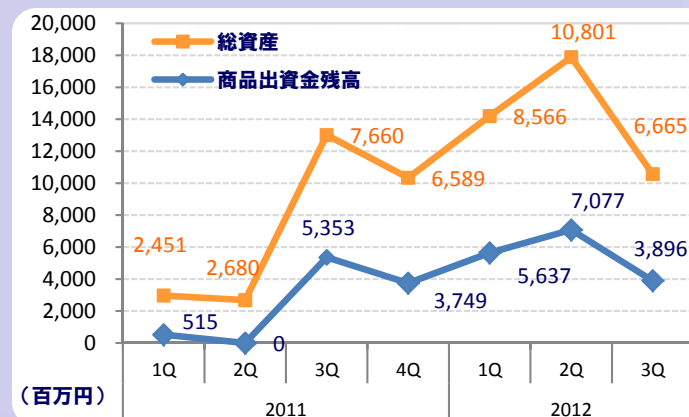
資産 (百万円)	2011年9月期 期末	2012年9月期 第3四半期末	増減
流動資産	6,209	6,256	+47
現金及び預金	2,226	2,109	△116
商品出資金	3,749	3,896	+147
その他 流動資産	233	250	+16
固定資産	380	409	+28
投資その他資産	284	312	+28
その他 固定資産	96	96	△0
資産合計	6,589	6,665	+75
負債 (百万円)	2011年9月期 期末	2012年9月期 第3四半期末	増減
流動負債	4,539	4,276	△262
短期借入金	3,637	3,346	△291
1年内返済予定の長期借入金	10	186	+176
前受金	461	314	△147
その他 流動負債	429	430	+1
固定負債	91	180	+89
長期借入金	0	100	+99
その他 固定負債	90	80	△9
負債合計	4,630	4,457	△172
株主資本 (百万円)	2011年9月期 期末	2012年9月期 第3四半期末	増減
資本金	334	334	-
資本剰余金	284	284	-
利益剰余金	1,340	1,589	+248
自己株式	△0	△0	△0
純資産合計	1,958	2,207	+248
負債純資産合計	6,589	6,665	+75

① 商品出資金3,896百万円 (+147百万円)

資金調達力の向上及び好調な出資金販売環境下において、案件組成に注力。今後の投資家需要に備え、商品出資金を積増。なお、商品出資金の立替資金は主にコミットメントライン融資枠等の短期借入金で調達。



商品出資金の販売に応じて前受金が売上に計上される。



② 借入金・社債合計3,712百万円 (△26百万円)

商品出資金の販売に伴い、借入金及び社債を返済。

③ 前受金 314百万円 (△147百万円)

商品出資金の販売に伴い前受金が減少。
第4四半期以降商品出資金の販売に応じて、前受金を売上計上。

④ 純資産 2,207百万円 (+248百万円)

四半期純利益458百万円を計上した一方で、前期期末配当の実施により172百万円、今期中間記念配当の実施により37百万円減少。

商品出資金(在庫)及び借入金の増減により大きく変動する自己資本比率

商品出資金とは、投資家への販売までの間、在庫として一時的に立替ている出資金であります。信用力の向上に伴い、資金調達力・組成額が拡大、また旺盛な投資家需要に対応するために在庫となる商品出資金を積増している。

一方、商品出資金の立替資金は主にコミットメントライン融資枠等の短期借入金で調達しており、商品出資金の積増に応じて短期借入金は増加、商品出資金の販売に応じて短期借入金は減少する。BSに占める短期借入金及び商品出資金のウェイトは大きく(当四半期においてはBSの50～60%)、商品出資金の積増・販売に応じて、当社のBS及び自己資本比率は、大きく変動する傾向にある。

商品出資金の残高と資金調達の状況 (百万円)	2011	2012 1Q	2012 2Q	2012 3Q
資産合計	6,589	8,566	10,801	6,665
現金及び預金	2,226	2,268	2,854	2,109
商品出資金 (BSに占める商品出資金の割合)	3,749 (56.9%)	5,637 (65.8%)	7,077 (65.5%)	3,896 (58.5%)
負債合計	4,630	6,758	8,637	4,457
借入金・社債合計 (BSに占める借入金・社債の割合)	3,738 (56.7%)	5,762 (67.3%)	7,136 (66.1%)	3,712 (55.7%)
うち、短期借入金	3,637	5,214	6,601	3,346
コミットメントライン契約に係る資産調達枠	3,000	5,750	7,250	8,950
上記の実行残高	1,950	3,066	3,764	2,670
純資産合計	1,958	1,807	2,163	2,207
自己資本比率	29.7%	21.1%	20.0%	33.1%

ご参考

	2011	2012 3Q
自己資本比率(実績値)	29.7%	33.1%
商品出資金を控除した場合の自己資本比率	69.0%	79.7%

業容拡大に不可欠な資金調達

上場により
信用力が向上

資金調達力
が拡大

案件組成
の拡大

商品出資金の
立替余力が向上
出資金の積増

タックスリース
アレンジメント収益の拡大
業容拡大へ

商品出資金の積増により資産、負債が拡大→自己資本比率が低下
商品出資金の販売により、資産、負債が減少→自己資本比率が向上

(百万円)	2012年9月期 第3四半期実績 (A)	2012年9月期 通期予想 (B)	(B-A)	通期業績予想 進捗率
売上高	1,787	2,363	575	75.7%
営業利益	855	1,163	308	73.5%
経常利益	797	1,113	315	71.7%
四半期（当期）純利益	458	646	188	70.9%
リース事業組成金額	34,357	50,140	15,782	68.5%
出資金販売額	12,087	14,784	2,696	81.8%

通期予想については、現時点において変更はありません。

第4四半期も、投資家の出資金に対する需要は引き続き強く推移する見込みであり、リース事業の組成についても、組成が確定している案件の他、賃借人候補先等と交渉中の案件もあります。しかしながら、経済環境に不透明さが増している中、リース事業の組成状況と出資金の販売状況の見込みについては、慎重に判断する必要があると考えております。

まずは、通期予想の達成に向けて注力してまいります。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

本資料における注意事項等

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社FPG（以下、弊社）の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社FPG 総務部

TEL (03) 5288-5691

URL <http://www.fpg.jp>

